

# 年頭のごあいさつ

## 足利に元気と輝きを取り戻す

足利市長 和泉 聡

**清**々しい新年を迎え、皆さんは、どのような目標を掲げたでしょうか。私は初心にかえって、足利に元気と輝きを取り戻すという強い思いを胸に刻みました。

振り返ると昨年3月は、市立美術館の山姥切国広展で4万人の若い女性たちが街中に溢れました。ひと振りの刀剣に対する思いが、美術館から商店街へと連鎖し、まち全体がおもてなしの心と活気に包まれました。今年も、そうしたまちの底力を引き出し、よい流れの連鎖を起こしていきます。

まず、定住促進策として、市街



▲両毛線新駅のイメージ図(JR東日本提供)

化調整区域の小学校周辺で宅地分譲などができ、大幅に規制緩和します。特に、子育て世代のマイホー

ムを想定しています。

日赤病院跡地には、足利大学(現足利工業大学)本城キャンパスが開校します。周辺に毎日集う1000人の学生たちの賑わいが連鎖するよう、大学や商店街と連携してまちなかの活性化を進めます。造成中のがた駅南産業団地は、予約分譲も順調に進み、数百人規模の新たな雇用創出が見込まれています。

いよいよ4月には、『あしかがフラワーパーク駅』が開業します。時期を同じくして、栃木県の魅力を発信する国内最大級の観光キャンプが実施されます。また、駅を起爆剤とした周辺地域の夢のある開発に着手します。

よい流れをさらに加速し、足利に元気と輝きを取り戻す。今年も市民の皆様と一緒に、まちづくりへ全力投球することを誓い、新年のご挨拶といたします。



## 開かれた議会を目指して

足利市議会議長 渡辺 悟

**年**頭にあたり、市議会を代表して謹んでご挨拶申し上げます。市民の皆様には、清々しい新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。また、皆様のご

支援により議員一同が議会活動に精励できましたことに対し、心からお礼申し上げます。さて、現在は地方分権の進展により、地域の課題は地域自らが考え、解決することが求められています。この様な地方の時代においては、市民と行政と議会が相互に連携し、協働することが重要であると思っております。

こうした中、市議会では市民の皆様にご意見を身近に感じていただく



▲高校生との意見交換会

き、市政に関する情報を共有するために議会報告会・意見交換会を開催しています。これまでは、平日の夜間に公民館で実施していましたが、昨年から土日の昼間も開催することにいたしました。そして、意見交換会を車座形式としたことで、より多くの方が自由に話し合える場になりましたと感じております。

また、新たに市内の高校生との意見交換会を実施いたしました。高校生たちが本市のことを真摯に考える姿勢に接し、将来の展望は明るいと確信したところです。

今後も幅広い年齢の方々に参加していただき、様々なご意見をうかがいながら、議会本来の役割を十分に発揮してまいりますので、ご理解とご支援をお願い申し上げます。結びに、今年一年における市民の皆様のご多幸を心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。



渡良瀬555  
あ 12-34

ご当地ナンバー  
渡良瀬の

導入を検討します!

賛成!?

反対!?

企画政策課・☎2103

### ご当地ナンバーとは

従来、自動車のナンバープレートには、管轄運輸支局などの名称が表示されていましたが、地域振興などの観点から、地域の要望に応じて、新たな地域名を表示するものです。

### 導入に必要な条件

1 車両登録台数が、単独市町村の場合は、10万台を超えていること

⇒足利市の登録台数は約72,000台のため、単独申請はできません。

足利ナンバーはムリ!

2 複数市町村の場合は、概ね5万台を超えていて、かつ地域名表示が国内外で相当程度の知名度を有していること

3 地域住民の合意形成が図られていること

皆さんのご理解が何より大事!

### 『渡良瀬』ナンバー導入検討の経過

左記の条件から、隣接する桐生市、太田市、みどり市の4市で連携して、各市とも愛着の深い『渡良瀬』ナンバーの導入を検討してきました。群馬県3市では市民アンケートを、本市では事前調査として市内企業にアンケートを実施したところ、本市と桐生市、みどり市では賛成が反対を上回りました。

そこで賛成が上回った3市で継続して協議を行い、11月に各県知事あてに意向表明に向け要望書を提出しました。今年度中に無作為抽出による市民アンケートを実施するなど、広く皆様のご意向を伺いながら、慎重に検討を進めていきます。仮に導入することになると2020年から交付が始まります。

### ご当地ナンバーが導入されると

地域名の知名度アップや郷土愛の醸成などが期待されます。新たに地域の図柄入りナンバープレートも選択が可能になります(無地も選べます)。

また、使用中の『とちぎ』ナンバーはそのまま使用できますが、新規登録や変更登録をする場合は、『とちぎ』ナンバーは選択できなくなり、順次新たな『渡良瀬』ナンバーに切り替えていくことになります。

至誠  
通天

市長コラム  
No.049



和泉 聡

### 天を相手に己を尽くす

新年明けて今年も明治維新から150年。これから始まるNHK大河ドラマは維新の立役者、西郷隆盛が主人公です。

西郷が残した言葉のひとつ「人を相手にせず、天を相手にせよ。天を相手に己を尽くし、人を咎めず、我が誠の足らざるを尋ぬべし」。時代を超えて人々に訴える力をもった言葉といえるのは、実は同じようなことを言っていることが多い。西郷の言葉を聞いてすぐ、私の脳裏に浮かんだのは、論語の「人の己を知らざるを患えず、己の能くする無きを患う」。

人は誰しも弱いから、つい他人の評価や視線を気にしがちだけど、大切なのは、自分のなすべきことをきちんとしているのか、自分は誠意を尽くしているのか、そのことを自分の胸に手を当てて、天に向かって静

かに自問自答する、それだけでいいのではないか。

昨年11月26日の朝日新聞の書評欄で、幕末の研究者、家近良樹さんの『維新150年目の真実』(NHK出版新書)が紹介されました。「西郷に匹敵したという中根雪江や川路利良らにも言及し、リーダーの資質を示す。背景には今日の『政治の劣化』や『礼節の欠如』があるといい、大切なものに人生をかける清廉潔白で人間力豊かな『人物』が不在と嘆く。『人材と人物は違います。いまの日本ではすぐ役立つことに価値を置きますが、人物は効率から生まれない。人物を育てるのは余裕。それは回り道や失敗体験を経ないと身につかない。』大切なものに人生をかけ、清廉潔白で人間力が豊かであること。私にとって「大切なもの」とは「このまちがよくなる」こと。いつも清廉潔白で、未熟ながらも毎日1ミリでもいいから成長するように努力し、まちがよくなるために、自分の人生をかけていきたいと思っています。